

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

ささえる力 Power



向き合う

～魔法の言葉をたずさえて～

仕事とやりがい

「大学の求人票を見つけたのがきっかけでしょうか。まだ学生でしたから、仕事のやりがいよりも勤務条件、安定性などを志向していた気がします。」と金子は照れくさそうに就活生だった当時を振り返る。

それから年月も経ち、事務系職員として、用地補償にはじまり、総務、経理と幅広い分野で経験を積み、活躍してきた。次第に、リーダーシップを求められるようになった金子は、自分の仕事について



Profile

三重用水管理所 所長代理

金子 寿子 Hisako Kaneko

平成4年4月、水資源開発公団（現水資源機構）に入社。事務系職員として総務業務、経理業務、用地補償業務に携わる。平成28年4月から現職。

てかつてとは異なる魅力を感じる。

「事務系職員ではありますが、自然という常に変化する相手と向き合う防災業務にやりがいを持っています。流域の人々の生命や財産を守るための施設を管理していることに、改めて重要な仕事をしていると感じるんです。」

一度態勢に入れば、昼夜を問わず、施設を守り、設備を操作し、周辺の巡視や現地の確認を行う防災業務。むしろその大変さが真剣な心持ちにさせると言う。そんな金子の後ろ髪を引かれるエピソードがあった。金子は、まだ幼い娘からの一言を今でもはっきりと覚えている。

「雨がやんで青空なのに、お母さんはどうしてまだ帰ってこないの？」

雨がやんでも上流の水が流れ込んでくれば、水かさが減るまで防災業務は続く。まだ幼かった娘が分からないのも無理はない。防災業務を伴う仕事と子育ての両立は容易ではなかったが、家族や同僚のサポートもあって今日までやってきた。か

つては小さかった娘も成長し、もうすぐ社会人。

「家ではほとんど仕事の話をしたことが無かったけれど、仕事をしている自分の姿が娘の目にどう映っているのか気になりますね。」

人と向き合うこと

昨年から管理職に就いた金子だが、一般職との違いをどのように感じているのだろう。

「一般職は、上司の指示を的確にこなすことを求められるのですが、管理職は、自らが最終的な判断をしなければいけないことが度々あります。例えば、契約業務や書類に決裁印を押すときは、間違いが許されないので緊張しますね。」と話す金子は、立場が変わったことにより、見方も変わったと続ける。事務所の雰囲気作りもその一つだ。「メリハリがあり、明るく、風通しのよい職場にしたいですね。そのために、顔と顔を合わせる対面でのコミュニケーションを大事にしています。対面でしか伝わらない雰囲気などをつぶさを感じとれます。」

化学変化は起きている。反対に話しかけられることも多くなったと金子が言うように、取材中、職員同士が明るく話している光景を何度も見かけた。理想の職場に一步一步近づいている。

の一言でうまくいくこともあると思います。また、自分が悪ければごめんなさいと素直に謝るようにしています。」

たしかに「ありがとう」の一言は素敵に響きわたる。でも、大人になればなるほど、「ありがとう」や「ごめんなさい」と素直に発しづらい、何か邪魔するものもあるだろう。あるいは、少し気恥ずかしいのかもしれない。しかし、金子は軽やかに飾らずに「ありがとう」という魔法の言葉を今日も奏でる。



「ありがとう」は魔法の言葉

理想の職場、作っていきたい環境のための魔法の杖はない。金子は言う。

「ありがとうは魔法の言葉ということをおみんなに伝えたいですね。自分が言われたら嬉しいし、そ



キチヌへの憧れ

たまに海を見に行きたくなるときがあり、どうせ行くなら1年前に始めたのが釣り。たまたま釣れたタケノコメバルを持って帰って食べたら、そのおいしさに感動したそう。今では、釣り好きの職員に見せてもらったキチヌ(キビレ)の美しい姿に惚れこみ、いつかキチヌを釣り上げたいと期待に胸を膨らませている。

